

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階入り口、2階入り口、休憩室等に理念を掲示し確認できるようにし、理念に向かって入居者様のケアの方向性を決めている。	全職員からのアンケートをもとにホーム独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、事業所内に理念を掲示し、確認しています。また、職員も個人の年度目標を設定し、理念を実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの子ども園との交流を予定していたが、新型コロナウイルスの関係で行き来はできていない。その代わりに作成した作品等のやり取りを行っている。また、地域との関係作りに努めている。	地域の運動会に参加したり、小学生に来てもらいご利用者と交流の機会を持ったり、こども園とビデオレターをやりとりするなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民児協定例会で事業所の紹介や制度の説明等を行っている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため実施できていない。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施しており、活動報告を通し意見や要望を吸い上げている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため、文章での照会のみで実施している)	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議で情報をお伝えすると共に、疑問に思ったことがあれば長岡市の職員に聞くことができる関係ができています。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂くなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の学習会を年2回行っており、マニュアルと禁止の対象となる具体的な行為を事務室内に掲示いつでも確認できるようにしている。また2ヶ月に1回、身体的拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束を行わない方針のもと、2ヶ月に1度、身体的拘束適正化委員会を開催し、法人でも身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の学習会を毎年行っており、マニュアルを事務室内に掲示しいつでも確認できるようにしている。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者もおらず、新型コロナウイルスの関係で研修等は行えてはいないが、学習教育委員会が学習教材として後見人のDVDを貸出している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	報酬改定の都度内容の説明と契約書の取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各居室担当を中心にご家族等へ状態報告を行っており、定期的にサービス担当者会議の際にも意見や要望を言って頂けるように努めている。	ご家族には運営推進会議の場だけでなく、サービス担当者会議、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関には意見箱を設置するなどし、意向に合わせたサービスが提供できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議や毎年の職員面談を通し、意見の吸い上げに努めている。また、普段から職員の相談にのり業務に反映させている。	職員との個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	毎年の職員面談を通し、異動の希望やその他労働条件の要望を聞き出し必要時は法人本部への相談を行っている。また、目標管理シートを活用し、各職員が目標を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため研修等には参加できていないが、その代わりに法人学習会としてマニュアルの再確認を行っている。また、通信教育も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や市主催の学習会等を通じて他事業所と交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため行っていない)		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談時に本人やご家族、担当のケアマネージャー等から聞き取りを行い、本人の困っていることや不安なこと等の情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学から事前面談、契約、入居時全てにおいてご家族からの不安などを聞き取り、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居だけではなく、相談内容によっては他のサービスの方が適している場合は、他をおすすめすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のユニット会議でケアの見直しを行っている。また、職員が入居者の仲介をして関係構築を促すと共に、座席変更の検討等も行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年賀状や暑中見舞い等のやり取りや、定期的な行事への呼び掛け、サービス担当者会議への参加の呼び掛けを行い、家族との関係構築に努めている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため行事への招待は行っており、サービス担当者会議は電話のみで実施している)	月に1度送付するホーム便りにも居室担当者のご利用者の生活の様子をまとめ、ご家族に近況の報告をしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や、友人の面談もあり疎遠にならないように努めている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため外出はできていない)	親族や知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族にもご協力を頂き馴染みの場所への外出も支援するなどし、今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時、座席の変更や、ユニットの移動も行い入居者同士の関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要があれば相談や支援を行っている。また、転居した後の施設への面会に行くなど、継続的な関係構築に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、本人の希望等の把握に努めている。また、毎月のユニット会議を通し、各居室担当を中心に職員全員が一人一人の思いの把握を話し合い、ケアに反映している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、ケアマネ、家族等からの情報収集を行い、入居前と大きな変化が起きないように努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	調査時点でアセスメントシート情報が更新されていない項目もありましたので、今後ミスのないように改善されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を経過記録に細かに落とし、ユニット会議などのカンファレンスの場を定期的に設け状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を6か月毎に開催。必ずご家族に参加して頂き、意見要望の反映を目指している。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため、電話でご家族と連絡をとっている)	介護計画の日々の実践状況を評価し、6ヶ月に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加していただき介護計画の検討を行っています。	調査時点で介護計画書の短期目標の期間が記載されていない方がいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケア記録を記入し、全職員で情報共有をしている。また、居室担当職員を中心にカンファレンスを行い、計画書の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて法人機関、母体診療所と連携し、必要時は法人内他施設に繋げている。また、必要時は介護保険外のサービスも利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや町内行事、地域交流区間わいが家でのイベントへの参加を通して楽しみの提供を行っている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため参加できていない)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約前の段階で主治医の希望を取り、適切な医療の継続に努めている。また、医師や看護師等と相談して必要性がある場合は専門病院の受診もすすめている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診も来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回母体診療所の看護師が状態確認の為施設への訪問、医療面での連携を行っている。また、必要時は皮膚状態の観察や巻き爪の処置等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院初期から病院の相談員、病棟看護師との連絡を密にし、本人の状態確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについての説明を行い署名、押印を頂いている。また、病状の変化があった段階で家族、主治医含め意向の確認も行っている。必要時は次の施設への紹介等も行っている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。また、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームのできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年全職員対象の法人主催の急変時や事故発生時の学習会、診療所医師によるAED使用、心肺蘇生の学習会に参加している。(今年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため、新人職員のみで実施)	毎年1回は法人でもAEDの使用や心肺蘇生に関する研修を行っており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練を実施。地域との協力体制構築の為、地域の会議や行事へ参加している。	年に2回、地震や火災を想定した避難訓練を行っており、災害時に備えた非常用の食品や水も確保されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内学習会を全職員対象に毎年行っている。また、高齢者への尊厳とプライバシーに関する内容のオリエンテーションを全職員入職、配属時に実施している。必要時は管理者から指導も実施している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように法人内研修等で徹底されています。また、広報やホームページへのご利用者の写真の掲載についても契約時に確認されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え、お茶の選択メニューや朝食の選択メニューなど、日々の関わりの中で自己決定が出来るような働き掛けを常に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを聞き出せる様に職員との関係構築に努め、その日の体調や気分を考慮し食事のタイミングや入浴の日時を変更しその人のペースに合わせた生活が送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、顔を拭けるように蒸しタオルを提供している。また、ご利用者によってはヘアピンやヘアゴムの使用、髪型など個々に合わせて対応している。また好みの服装や衣類の自己決定など、職員本位にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食は米飯、パン、お粥等を用意しており、個々に好みのヨーグルトや牛乳等をとっている方もいる。また、食事の準備や片付けは日常的に一緒に行っている。	ご利用者にも調理の準備や後片付けを行ってもらっています。ご利用者の意向を調査し、パンの日を設けたり、流しそうめんを行うなどし、食事が楽しみになるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に2回お茶の時間を設けている。また、入浴後の水分摂取も行っている。それ以外の時間も希望時や摂取量が少ない方には臨機応変に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導と必要時は介助をし、清潔保持に努めている。ご利用者によっては歯科の定期点検をしている方がおり、その他必要時にも歯科往診をする等の対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板を設け1日の排泄状況の把握を行っており、トイレの間隔をみてトイレ誘導を行い失禁予防に努めている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、必要な方には下剤を使用し調整するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時に乳製品を提供したり、運動の機会を設ける等し便秘解消に努めている。また、必要時には医療との連携も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本となる曜日は決めているが、その日その時の体調や気分に合わせて日時の変更など、臨機応変に対応し、週に2回の入浴は行えるよう努めている。	ご利用者の希望に合わせて同性介助での入浴支援を行ったり、入浴拒否があるご利用者にもうまくタイミングを図り声掛けし、入浴してもらっています。	調査時点で入浴チェック表に、入浴された日の記録がされていない方がいましたので、今後改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に午睡の有無や就寝時間等をその人に合わせ柔軟に対応している。必要時は医療とも連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問が定期的であり、薬の疑問などの相談を行っている。また、薬が合わない時はすぐに医療や薬剤師等に相談し、速やかに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な行事計画を実施している。また、その都度ご利用者の意向に合わせた家事作業やアクティビティ等の提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため行えていないが、その前は家族を含め本人と一緒に外出や地域行事への参加ができるように努めていた。今後、新型コロナウイルスが落ち着いたときには、積極的に外出支援を行って行きたい。また、屋外での草花の水やり等日常的に行っている。	新型コロナウイルス対策以前には、ご家族と一緒に外食や温泉に出かけるご利用者もおり、ご利用者と一緒に散歩に出かけたり、季節に合わせたお花見やドライブなどの外出も実施されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の金庫で個々のお金を預からせて頂き、買い物の際など本人から払ってもらうようにしている。(現在は新型コロナウイルス蔓延防止のため、買い物には行っていない。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞、手紙や電話のやり取りは継続的に行っており、繋がりが切れないように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は窓にすだれをつけたり、テレビの位置の変更やトイレ内消臭対策、脱衣室の環境整備をするなど施設全体を見直し、快適に生活出来るように努めている。	共有スペースはゆったりとしており、ご利用者がくつろぎながらテレビを見れる環境です。また、季節のお花を飾ったり、季節に合わせた作品も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室(食堂)以外に団らんスペースを各ユニットに1ヶ所ずつ設置。日常的に使用して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や物等を持参して頂くよう家族にお願いをすると共に、入居前の居室内の配置と同じ様な空間にして頂けるようにしている。	居室には、使い慣れたタンスや仏壇などを持ち込んでもらったり、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ご利用者がわかりやすいように場所の名前を表示するなどし、なるべくご自分で行えるように努めている。また、危険性のあるものに関しては変更、撤去等している。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				